

**[成果情報名]加温施設栽培におけるウンシュウミカン「長崎果研原口1号」の有利性**

**[要約]**加温施設栽培のウンシュウミカン「長崎果研原口1号」は、「原口早生」の収穫適期に糖度が高く、酸含量は低い。「原口早生」よりも着色が早く、1旬早い収穫および出荷が可能であり、販売額を試算すると5.6%増加する。

**[キーワード]**「長崎果研原口1号」、施設栽培

**[担当]**長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

**[連絡先]**(代表) 0957-55-8740

**[区分]**果樹

**[分類]**指導

**[作成年度]**2019年度

---

**[背景・ねらい]**

早生ウンシュウミカン「長崎果研原口1号」は「原口早生」の枝変わり個体から育成した長崎県オリジナルのウンシュウミカンである。露地栽培では糖度(Brix)は11程度、クエン酸含量は0.80g/100ml以下となり、10月中旬に成熟する良食味の早生温州である。10月下旬に6~8分着色し、「原口早生」と比べて成熟期は15日程度早い。ここでは加温施設栽培における特性および有利性を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. 露地栽培における「長崎果研原口1号」は、「原口早生」に比べて8分着色に達するのが1旬早い(図1)。
2. 加温施設栽培における「長崎果研原口1号」の糖度(Brix)は「原口早生」に比べ高く、酸含量は低い。「原口早生」の収穫適期に「長崎果研原口1号」を収穫した場合、着色は早く、浮皮が多い(表1、写真1)。
3. 長崎県における2016~2018年の施設ミカン販売額実績を基に出荷を1旬早めた場合の販売額(「長崎果研原口1号」販売額)を5月下旬から6月下旬までの期間で試算すると、10aあたりの販売増加額は256千円となり、その増加率は5.6%である(表2)。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 供試樹は島原地区において2013年3月に5年生宮川早生を中間台木とし「長崎果研原口1号」と、対照に「原口早生」を各3樹高接ぎした。
2. 加温施設は、11月上旬に加温開始する6月出荷体系で管理を行った。
3. 「長崎果研原口1号」は、収穫適期を過ぎると浮き皮が発生しやすいため、浮き皮の発生を見ながら収穫する。



写真1 加温施設栽培収穫時の着色

(左:原口早生 右:長崎果研原口1号) 2018年6月6日撮影

[具体的データ]

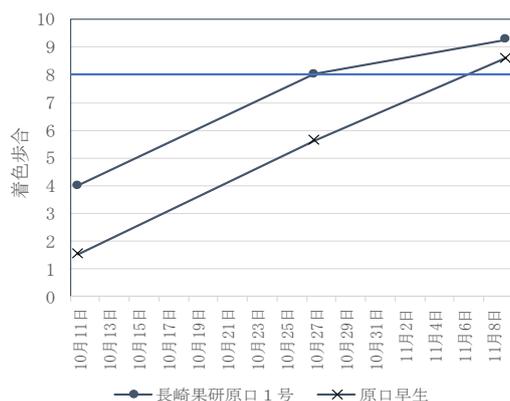


図1 「長崎果研原口1号」の着色歩合推移（露地）<sup>z</sup>  
<sup>z</sup> 3カ年平均

表1 「長崎果研原口1号」の年次別果実品質（施設）<sup>z</sup>

調査年	品種名	果実重 (g)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	着色歩合	浮皮発生度
2016	長崎果研原口1号	92.9	12.5	0.79	9.7	11.1
	原口早生	92.1	11.8	0.88	7.9	6.7
	有意差	n. s.	*	*	*	n. s.
2017	長崎果研原口1号	85.4	13.6	0.98	8.8	6.7
	原口早生	74.5	13.4	1.21	6.9	0
	有意差	*	n. s.	*	*	n. s.
2018	長崎果研原口1号	87.4	13.6	0.80	9.4	4.4
	原口早生	79.4	12.1	1.16	6.3	0
	有意差	*	*	*	*	n. s.

<sup>z</sup> 収穫日は2016年5月24日、2017年6月8日、2018年6月5日。各区3樹5果の平均。  
<sup>y</sup> 糖度、酸含量、果実重、着色歩合はt検定、浮皮発生度はマンホイットニーのU検定により符号が付いた項目において5%水準で有意差あり

表2 施設ミカンの出荷を一句早めた場合の販売額試算<sup>z</sup>

		5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	合計販売額
実績 (3カ年平均)	販売単価 (円/kg)	1,135	1,039	973	933	
試算 <sup>y</sup> (10aあたり)	原口早生 収量 (kg)	0	392	1,569	2,868	
	原口早生 販売額 (千円)	0	408	1,526	2,675	4,609 (A)
	長崎果研 収量 (kg)	392	1,569	2,868	0	
	長崎果研 販売額 (千円)	445	1,631	2,789	0	4,865 (B)
10aあたり販売増加額 (B-A)						256 千円
増加率 (B/A)						5.6 %

<sup>z</sup> 施設ミカン販売額実績（全農ながさき2016～2018）を基に試算  
<sup>y</sup> 平成29年産果樹施設栽培状況調査より、施設栽培ミカン「原口早生」栽培面積1.8ha、生産量86.9tより、単収4,828kg/10a。「長崎果研原口1号」販売額試算（千円）＝ 試算収量 × 3カ年平均販売単価実績

[その他]

研究課題名：ながさきオリジナル新品種開発推進事業

予算区分：県単

研究期間：2015～2018年度

研究担当者：法村彩香、早崎宏靖